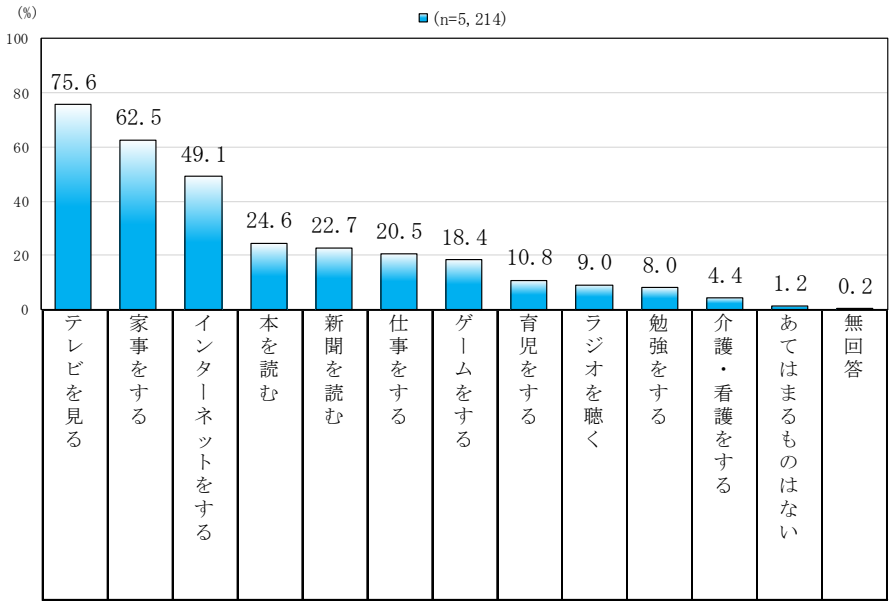
第３章　40 歳～69 歳対象調査[19]

１．普段の活動

（１）家でよくしていること（問 14）

問 14　普段ご自宅（暮らしている場所）にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。よくしていることをすべて選んでください。（いくつでも）

図表２－３－１－１－１　家でよくしていること



普段、自宅（暮らしている場所）にいるときによくしていることとしては（図表 2-3-1-1-1）、「テレビを見る」が 75.6％で第１位にあげられ、以下、「家事をする」（62.5％）、「インターネットをする」（49.1％）、「本を読む」（24.6％）、「新聞を読む」（22.7％）、「仕事をする」（20.5％）などの順となっている。

[19] 40 歳～69 歳対象調査では、問１～問 13 の質問項目は設けていない。

性別にみると（図表 2-3-1-1-2)、「テレビを見る」（男性 78.6%、女性 73.4%)、「インターネットをする」（男性 57.5%、女性 42.1%)、「新聞を読む」（男性 24.8%、女性 21.2%)、「仕事をする」（男性 23.5%、女性 17.8%）などは女性より男性で、「家事をする」（男性 34.9%、女性 85.9%)、「育児をする」（男性 8.7%、女性 12.4%)、「介護・看護をする」（男性 2.3%、女性 6.1%）などは男性より女性で、それぞれ多くあげられている。

年齢別にみると（図表 2-3-1-1-2)、45 歳以上では「テレビを見る」（45 歳～49 歳 68.8%、50 歳～54 歳 72.6%、55 歳～59 歳 79.7%、60 歳～64 歳 82.5%、65 歳～69 歳 85.7%）が第１位にあげられているが、40 歳～44 歳では「インターネットをする」（64.0%）が最も多い。また、いずれの年齢層でも、第２位には、「家事をする」があげられている。

図表２－３－１－１－２　家でよくしていること（性別、年齢別）

(%)

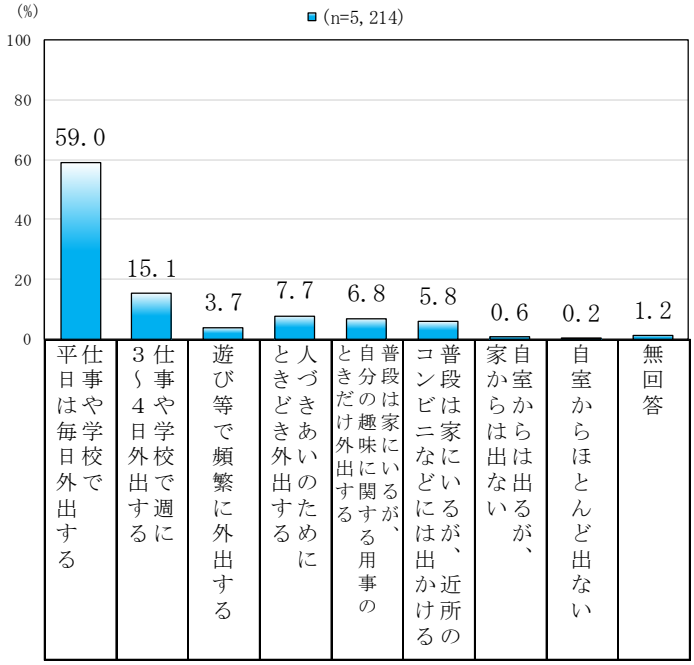
		n	テレビを見る	家事をする	インターネットをする	本を読む	新聞を読む	仕事をする	ゲームをする	育児をする	ラジオを聴く	勉強をする	介護・看護をする	あてはまるものはない	無回答
性	男性	(2,378)	78.6	34.9	57.5	24.1	24.8	23.5	19.3	8.7	9.0	8.3	2.3	1.7	0.3
	女性	(2,815)	73.4	85.9	42.1	25.0	21.2	17.8	17.5	12.4	9.0	7.5	6.1	0.7	0.2
年齢	40歳～44歳	(738)	60.7	63.0	64.0	20.7	7.6	21.1	30.5	35.6	4.3	9.1	0.8	0.8	0.3
	45歳～49歳	(873)	68.8	63.1	60.0	25.2	11.3	21.3	26.9	20.4	6.2	11.3	1.6	1.0	-
	50歳～54歳	(861)	72.6	66.0	53.4	25.6	15.3	20.0	20.4	7.9	7.5	9.1	5.0	1.5	0.1
	55歳～59歳	(843)	79.7	63.2	51.1	25.0	24.3	20.6	15.9	2.5	8.9	6.4	6.0	1.2	0.5
	60歳～64歳	(949)	82.5	61.9	40.7	25.0	31.0	20.7	12.0	1.4	11.2	5.6	7.5	1.1	0.1
	65歳～69歳	(950)	85.7	58.5	30.1	25.6	42.1	19.5	8.0	2.0	14.3	6.7	4.7	1.3	0.5

２．外出状況

（１）普段の外出頻度（問 15）

問 15　あなたは普段どのくらい外出しますか。現在のことについてお答えください。（１つだけ）

図表2－3－2－1－1　普段の外出頻度



普段の外出頻度を聞いたところ（図表 2-3-2-1-1）、「仕事や学校で平日は毎日外出する」という回答者の割合が 59.0％で、最も高い。

外出頻度が低い状態にある者についてみると、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」（6.8％）、「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」（5.8％）、「自室からは出るが、家からは出ない」（0.6％）、「自室からほとんど出ない」（0.2％）となっている。（以下、本章ではこれらの者を「外出頻度の低い回答者」と総称する。）

図表2－3－2－1－2　普段の外出頻度（性別、年齢別）

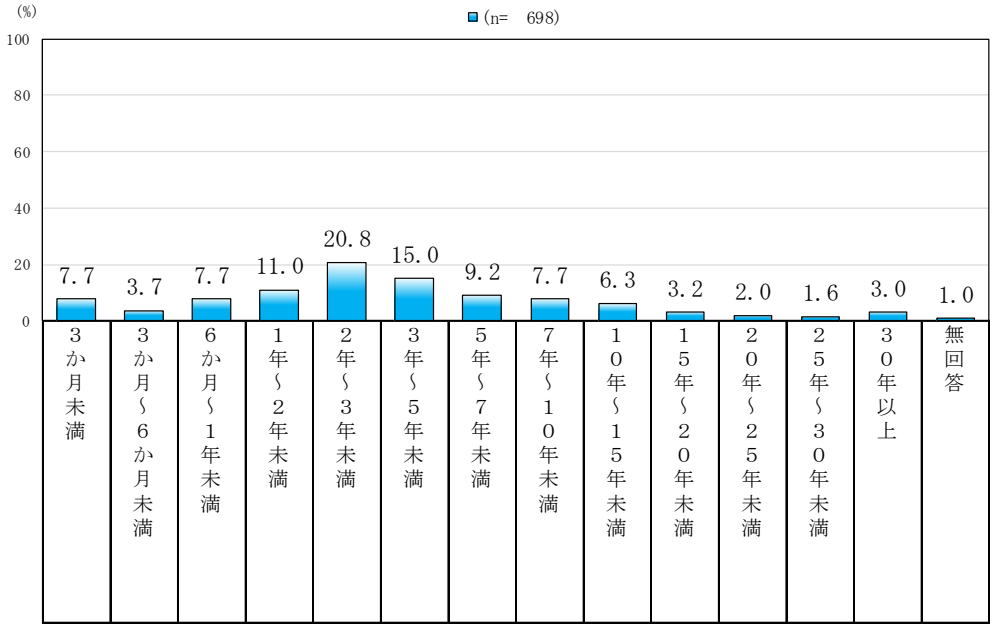
(%)

		n	仕事や学校で平日は毎日外出する	仕事や学校で週に3～4日外出する	遊び等で頻繁に外出する	人づきあいのためにときどき外出する	普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	自室からは出るが、家からは出ない	自室からほとんど出ない	無回答
性	男性	(2,378)	67.9	11.3	3.3	3.7	7.0	5.3	0.5	0.2	0.7
	女性	(2,815)	51.5	18.2	4.0	11.0	6.7	6.2	0.6	0.2	1.5
年齢	40歳～44歳	(738)	73.2	11.2	2.3	4.5	4.5	3.3	0.5	0.1	0.4
	45歳～49歳	(873)	72.1	13.5	2.6	3.7	3.7	3.6	0.2	0.2	0.5
	50歳～54歳	(861)	70.3	13.8	1.6	6.0	2.9	3.9	0.7	0.1	0.6
	55歳～59歳	(843)	65.0	14.6	2.7	5.5	5.7	4.9	0.2	0.2	1.2
	60歳～64歳	(949)	52.9	17.7	4.2	8.4	7.9	6.7	0.6	0.2	1.3
	65歳～69歳	(950)	26.5	18.5	8.1	16.4	14.8	11.5	1.1	0.3	2.7

（２）現在の外出状況になってからの期間（問 16）

問 16　あなたの外出状況が現在の状態となって、どのくらい経ちますか。（１つだけ）

図表２－３－２－２－１　現在の外出状況になってからの期間



外出頻度の低い回答者（698 人）が、現在の外出状況になってからの期間をみると（図表 2-3-2-2-1）、「２年～３年未満」という回答者が 20.8%で、次いで「３年～５年未満」（15.0%）、「１年～２年未満」（11.0%）、「５年～７年未満」（9.2%）などの順となっている。また、６か月以上である旨の回答をした者をすべて合わせると、87.5%となる。

図表２－３－２－２－２　現在の外出状況になってからの期間（性別、年齢別）

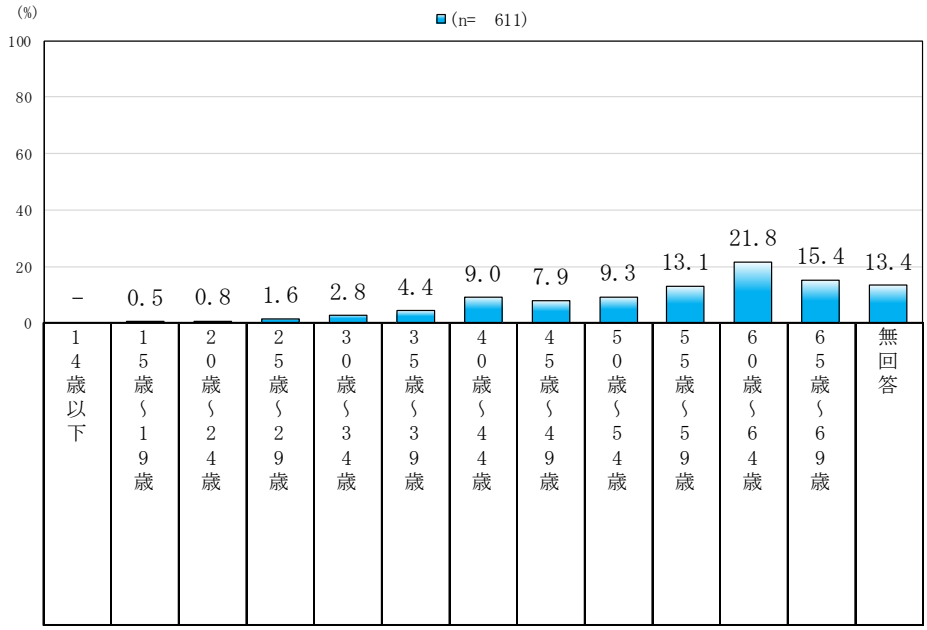
(%)

		n	3か月未満	3か月～6か月未満	6か月～1年未満	1年～2年未満	2年～3年未満	3年～5年未満	5年～7年未満	7年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年～25年未満	25年～30年未満	30年以上	無回答
性	男性	(310)	7.1	2.9	10.3	12.3	24.2	13.9	8.1	6.8	5.2	3.2	1.3	1.0	3.2	0.6
	女性	(386)	8.0	4.4	5.7	10.1	18.1	16.1	9.8	8.5	7.3	3.1	2.6	2.1	2.8	1.3
年齢	40歳～44歳	(62)	11.3	3.2	12.9	8.1	27.4	19.4	1.6	11.3	4.8	－	－	－	－	－
	45歳～49歳	(67)	10.4	4.5	4.5	11.9	17.9	10.4	9.0	10.4	9.0	－	3.0	7.5	1.5	－
	50歳～54歳	(66)	6.1	4.5	6.1	15.2	19.7	12.1	10.6	4.5	12.1	3.0	1.5	－	3.0	1.5
	55歳～59歳	(93)	8.6	4.3	9.7	9.7	23.7	12.9	4.3	5.4	4.3	5.4	4.3	3.2	3.2	1.1
	60歳～64歳	(147)	8.2	4.8	8.8	14.3	18.4	13.6	8.8	6.1	4.1	2.7	2.0	0.7	6.8	0.7
	65歳～69歳	(263)	6.1	2.7	6.5	9.1	20.5	17.5	12.5	8.7	6.5	4.2	1.5	0.8	1.9	1.5

（３）現在の外出状況になった年齢（問 17）

問 17　あなたの外出状況が現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。（数字で具体的に）

図表２－３－２－３－１　現在の外出状況になった年齢



外出頻度の低い回答者のうち、現在の外出状況となってからの期間が６か月以上である旨の回答をした者（611 人）（問 16 参照。以下、本章において同じ。）に、今の状況になった年齢を聞いたところ（図表 2-3-2-3-1）、「60 歳～64 歳」（21.8%）、「65 歳～69 歳」（15.4%）、「55 歳～59 歳」（13.1%）、「50 歳～54 歳」（9.3%）の順となっている。

図表２－３－２－３－２　現在の外出状況になった年齢（性別、年齢別）

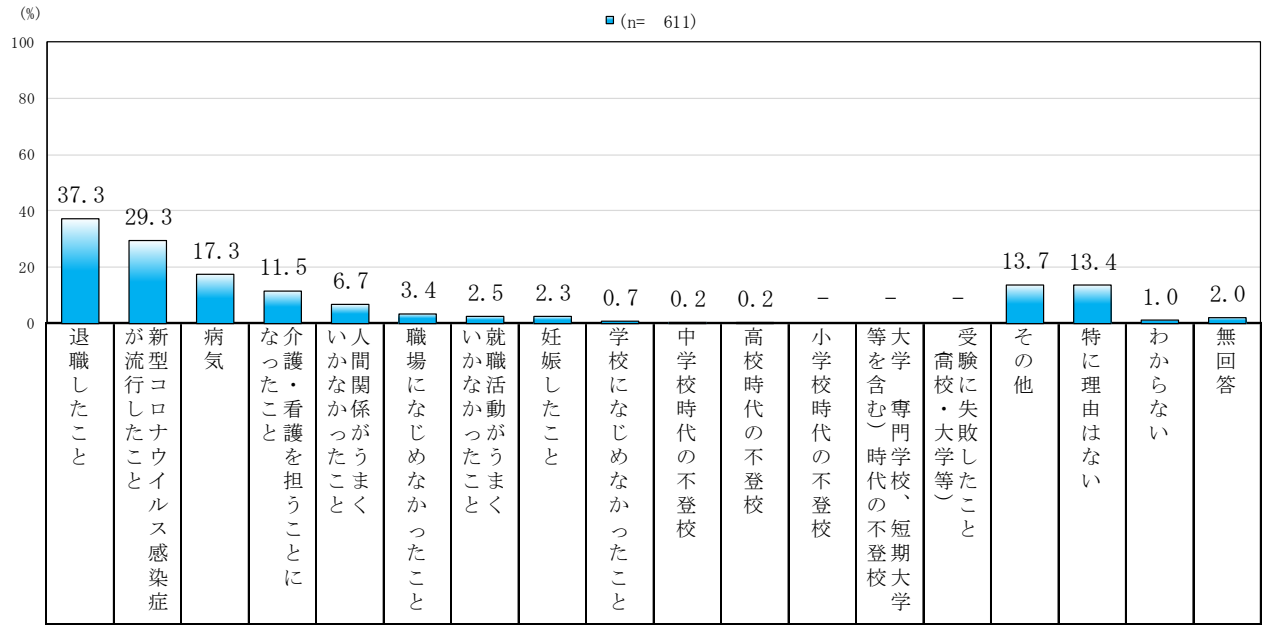
(%)

		n	14歳以下	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	無回答
性	男性	(277)	－	1.1	1.1	0.7	2.5	3.2	7.2	7.9	9.4	10.5	22.7	20.6	13.0
性	女性	(333)	－	－	0.6	2.4	3.0	5.4	10.5	7.8	9.3	15.3	20.7	11.1	13.8
年齢	40歳～44歳	(53)	－	－	－	1.9	11.3	20.8	52.8	－	－	－	－	－	13.2
年齢	45歳～49歳	(57)	－	3.5	5.3	3.5	1.8	8.8	24.6	40.4	－	－	－	－	12.3
年齢	50歳～54歳	(58)	－	－	1.7	－	1.7	6.9	13.8	27.6	34.5	－	－	－	13.8
年齢	55歳～59歳	(80)	－	1.3	1.3	2.5	3.8	3.8	1.3	3.8	21.3	43.8	－	－	17.5
年齢	60歳～64歳	(127)	－	－	－	3.1	3.9	2.4	2.4	1.6	8.7	21.3	45.7	－	11.0
年齢	65歳～69歳	(236)	－	－	－	0.4	0.4	0.4	0.4	1.7	3.8	7.6	31.8	39.8	13.6

（４）現在の外出状況になった理由

問 18－１　あなたの外出状況が現在の状態になった主な理由は何ですか。（いくつでも）

図表２－３－２－４－１　現在の外出状況になった理由



外出頻度の低い回答者のうち、現在の外出状況となってからの期間が６か月以上である旨の回答をした者（611 人）に、今の状況になった理由を聞いたところ（図表 2-3-2-4-1）、「退職したこと」が 37.3％で第１位にあげられ、以下、「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」（29.3％）、「病気」（17.3％）などの順となっている。

「特に理由はない」という回答者は 13.4％である。

性別にみると（図表 2-3-2-4-2)、「退職したこと」（男性 42.2%、女性 33.3%)、「人間関係がうまくいかなかったこと」（男性 9.0%、女性 4.8%）などは女性より男性に、「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」（男性 23.8%、女性 33.9%)、「介護・看護を担うことになったこと」（男性 8.3%、女性 13.8%）などは男性より女性に、それぞれ多くあげられている。

年齢別にみると（図表 2-3-2-4-2)、「退職したこと」は、年齢が高い層ほど多くあげられている。また、45 歳～49 歳では、「人間関係がうまくいかなかったこと」(19.3%）が他の年齢層に比べて多くあげられている。

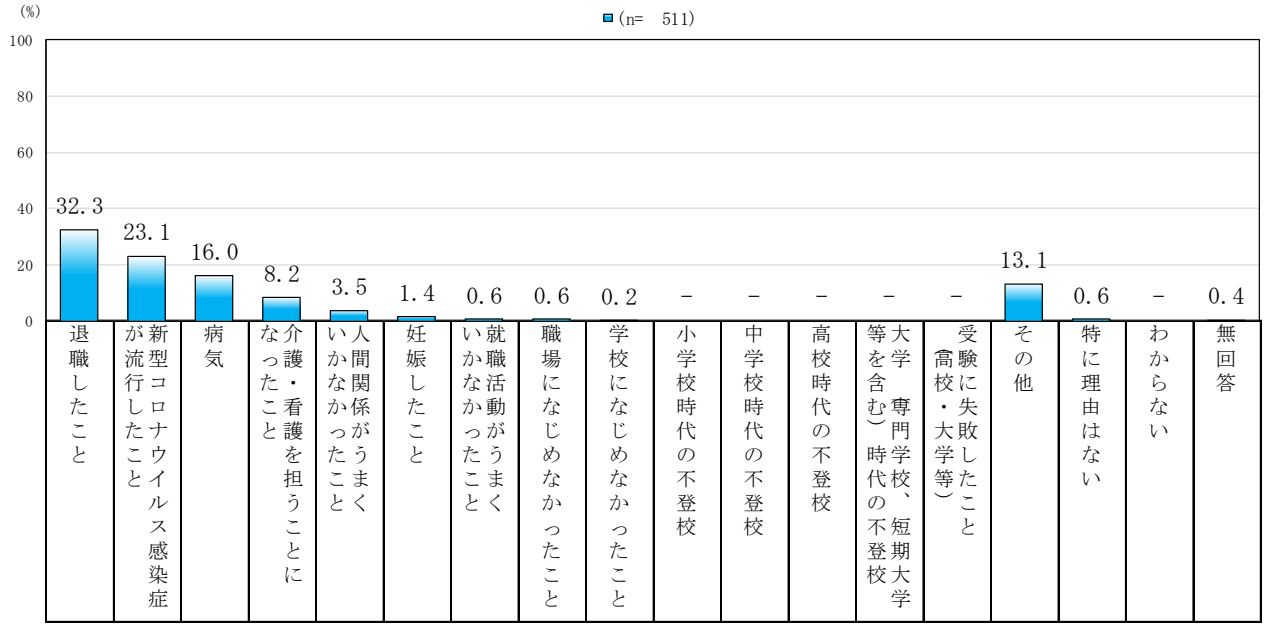
図表2－3－2－4－2 現在の外出状況になった理由（性別、年齢別）

(%)

		n	退職したこと	新型コロナウイルス感染症が流行したこと	病気	介護・看護を担うことになったこと	人間関係がうまくいかなかったこと	職場になじめなかったこと	就職活動がうまくいかなかったこと	妊娠したこと	学校になじめなかったこと	中学校時代の不登校	高校時代の不登校	小学校時代の不登校	大学（専門学校、短期大学等を含む）時代の不登校	受験に失敗したこと（高校・大学等）	その他	特に理由はない	わからない	無回答
性	男性	(277)	42.2	23.8	19.1	8.3	9.0	5.1	2.5	－	0.7	－	－	－	－	－	10.5	14.1	1.8	1.8
	女性	(333)	33.3	33.9	15.9	13.8	4.8	2.1	2.4	4.2	0.6	0.3	0.3	－	－	－	16.5	12.9	0.3	2.1
年齢	40歳～44歳	(53)	15.1	41.5	17.0	3.8	7.5	5.7	7.5	9.4	－	－	－	－	－	－	18.9	18.9	1.9	－
	45歳～49歳	(57)	19.3	29.8	21.1	3.5	19.3	7.0	－	3.5	3.5	1.8	1.8	－	－	－	24.6	12.3	－	－
	50歳～54歳	(58)	17.2	31.0	25.9	13.8	12.1	8.6	3.4	1.7	－	－	－	－	－	－	13.8	20.7	－	1.7
	55歳～59歳	(80)	33.8	36.3	21.3	15.0	10.0	5.0	5.0	－	1.3	－	－	－	－	－	16.3	15.0	1.3	1.3
	60歳～64歳	(127)	38.6	28.3	10.2	14.2	3.1	1.6	1.6	3.9	0.8	－	－	－	－	－	11.8	16.5	1.6	0.8
	65歳～69歳	(236)	52.1	24.2	16.9	11.9	3.0	1.3	1.3	0.4	－	－	－	－	－	－	10.2	8.5	0.8	3.8

問 18－2　あなたの外出状況が現在の状態になった最も大きな理由は何ですか。
問 18－1の選択肢の中から、番号を１つだけ選んでください。

図表2－3－2－4－3　現在の外出状況になった最も大きな理由



問１８－１（複数回答）で、なんらかの理由を答えた者（511 人）に、そのなかで最も大きな理由について聞いたところ（図表 2-3-2-4-3）、「退職したこと」（32.3%）、「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」（23.1%）、「病気」（16.0%）の順となっている。

性別にみると（図表 2-3-2-4-4）、男女とも「退職したこと」（男性 38.6%、女性 27.3%）が第１位になっており、女性では「新型コロナウイルス感染症が流行したこと」（27.0%）がほぼ同率で第２位となっている。

年齢別にみると（図表 2-3-2-4-4）、「退職したこと」という回答者の割合は、55 歳以上では年齢が高い層ほど高く、55 歳～59 歳で 22.7%、65～69 歳で 46.3%となっている。

図表2－3－2－4－4　現在の外出状況になった最も大きな理由（性別、年齢別）[20]

(%)

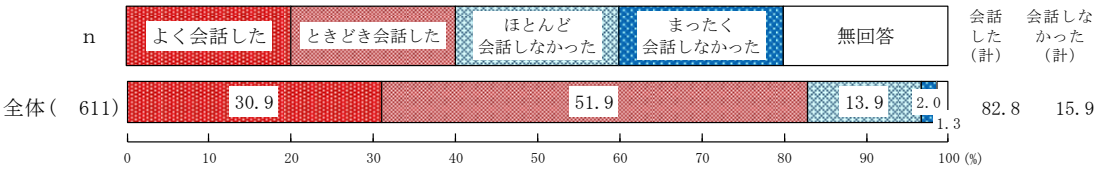
		n	退職したこと	新型コロナウイルス感染症が流行したこと	病気	介護・看護を担うことになったこと	人間関係がうまくいかなかったこと	妊娠したこと	就職活動がうまくいかなかったこと	職場になじめなかったこと	学校になじめなかったこと	小学校時代の不登校	中学校時代の不登校	高校時代の不登校	大学（専門学校、短期大学等を含む）時代の不登校	受験に失敗したこと（高校・大学等）	その他	特に理由はない	わからない	無回答
性	男性	(228)	38.6	18.4	19.7	5.3	3.9	－	0.9	0.9	－	－	－	－	－	－	10.5	0.9	－	0.9
	女性	(282)	27.3	27.0	13.1	10.3	3.2	2.5	0.4	0.4	0.4	－	－	－	－	－	15.2	0.4	－	－
年齢	40歳～44歳	(42)	14.3	35.7	9.5	4.8	7.1	2.4	2.4	－	－	－	－	－	－	－	23.8	－	－	－
	45歳～49歳	(50)	14.0	26.0	20.0	2.0	12.0	4.0	－	－	－	－	－	－	－	－	20.0	2.0	－	－
	50歳～54歳	(45)	8.9	24.4	33.3	11.1	6.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	15.6	－	－	－
	55歳～59歳	(66)	22.7	31.8	19.7	6.1	3.0	－	－	1.5	－	－	－	－	－	－	15.2	－	－	－
	60歳～64歳	(103)	36.9	23.3	6.8	13.6	1.9	2.9	－	1.0	1.0	－	－	－	－	－	11.7	－	－	1.0
	65歳～69歳	(205)	46.3	16.6	16.1	7.8	1.0	0.5	1.0	0.5	－	－	－	－	－	－	8.8	1.0	－	0.5

[20] 40 歳～44 歳と 50 歳～54 歳は、回答者些少のため参考値。

（５）家族以外との会話の状況（問 19）

問 19　最近６か月間に、家族以外の人と会話しましたか。（１つだけ）

図表2－3－2－5－1　家族以外との会話の状況

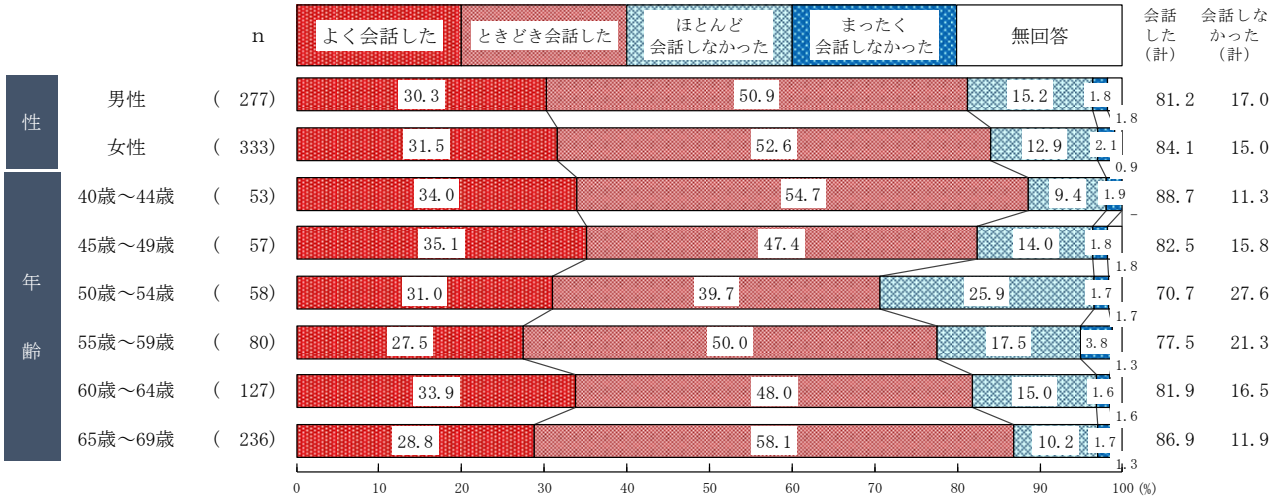


外出頻度の低い回答者のうち、現在の外出状況となってからの期間が６か月以上である旨の回答をした者（611 人）に、最近６か月間の家族以外との会話の状況を聞いたところ（図表 2-3-2-5-1）、「よく会話した」という回答者は 30.9%、「ときどき会話した」は 51.9%である。また、「まったく会話しなかった」は 2.0%、「ほとんど会話しなかった」は 13.9%であり、『会話しなかった』（「まったく会話しなかった」＋「ほとんど会話しなかった」）という回答者は 15.9%である。

性別にみると（図表 2-3-2-5-2）、「ほとんど会話しなかった」は男性 15.2%、女性 12.9%、「まったく会話しなかった」は男性 1.8%、女性 2.1%であり、『会話しなかった』（「まったく会話しなかった」＋「ほとんど会話しなかった」）という回答者は男女ともに１割台（男性 17.0%、女性 15.0%）で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-3-2-5-2）、『会話しなかった』という回答者の割合は、50～54 歳の 27.6%を境に、年齢が高い層ほど低くなっている。

図表2－3－2－5－2　家族以外との会話の状況（性別、年齢別）

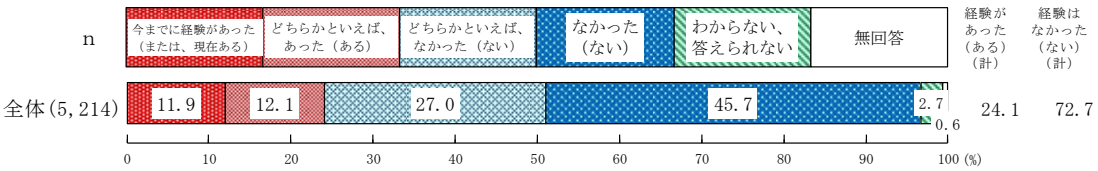


３．困難に直面した経験

（１）困難に直面した経験（問 20）

問 20　あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験がありましたか。または、現在、社会生活や日常生活を円滑に送れていない状況がありますか。
最もあてはまるものを選んでください。（１つだけ）

図表２－３－３－１－１　困難に直面した経験

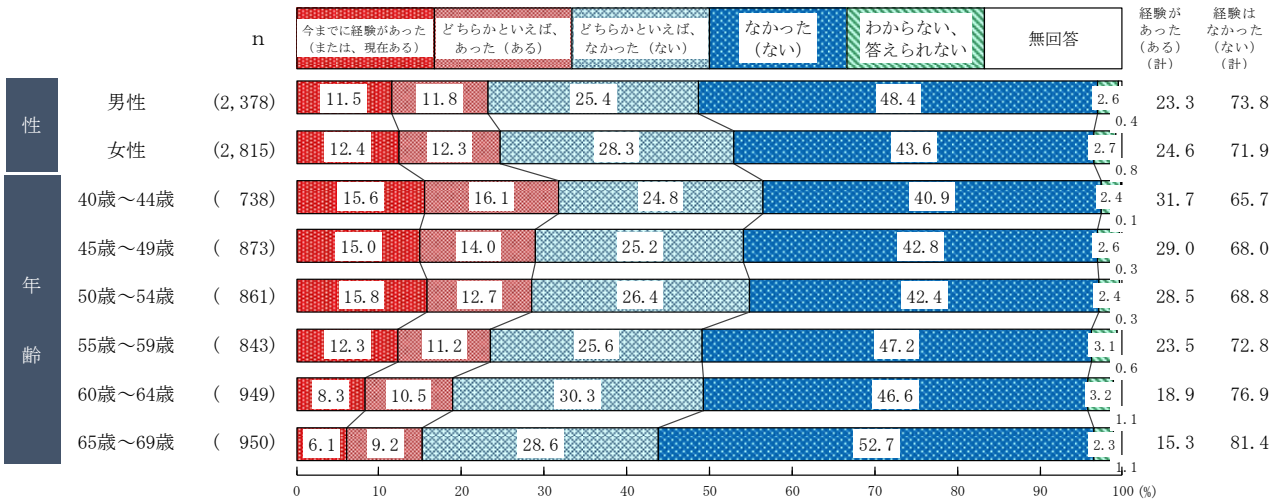


社会生活や日常生活を円滑に送る上での困難について、「今までに経験があった（または、現在ある）」という回答者は 11.9%、「どちらかといえば、あった（ある）」は 12.1%となっており、約４人に１人が『経験があった（ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」＋「どちらかといえば、あった（ある）」）と回答している（図表 2-3-3-1-1）。

性別にみると（図表 2-3-3-1-2）、困難に直面した『経験があった（ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」＋「どちらかといえば、あった（ある）」）という回答者は、男女とも２割台（男性 23.3%、女性 24.6%）で、大きな男女差はみられない。

年齢別にみると（図表 2-3-3-1-2）、困難に直面した『経験があった（ある）』という回答者の割合は、年齢が低い層ほど高く、54 歳以下の年齢層では３割前後（40 歳～44 歳 31.7%、45 歳～49 歳 29.0%、50 歳～54 歳 28.5%）である。

図表２－３－３－１－２　困難に直面した経験（性別、年齢別）



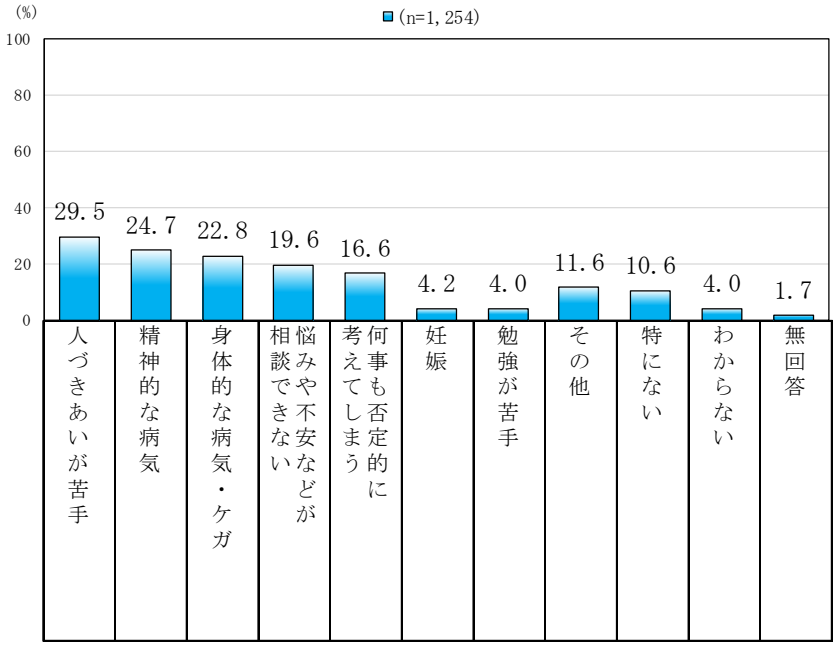
（２）困難に直面した原因（問 21）

問２１　そうした問題を経験した、又は現在経験している主な原因は何ですか。 以下の（１）～（４）のそれぞれにお答えください。（いくつでも） （1）自分自身について （2）家族・家庭について （3）学校について （4）仕事・職場について

問２０で、社会生活や日常生活を円滑に送る上での困難について、『経験があった（ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」＋「どちらかといえば、あった（ある）」）と答えた者（1,254 人）に、その原因を“自分自身について”、“家族・家庭について”、“学校について”、“仕事・職場について”の４つの切り口から聞いた。

①自分自身について

図表２－３－３－２－１　困難に直面した原因：自分自身について



まず、“自分自身について”では（図表 2-3-3-2-1）、「人づきあいが苦手」（29.5%）、「精神的な病気」（24.7%）、「身体的な病気・ケガ」（22.8%）、「悩みや不安などが相談できない」（19.6%）、「何事も否定的に考えてしまう」（16.6%）などの順にあげられている。

“自分自身について”を性別にみると（図表 2-3-3-2-2）、「何事も否定的に考えてしまう」（男性 13.2%、女性 19.3%）などは、男性より女性で多くあげられている。

年齢別にみると（図表 2-3-3-2-2）、40 歳～44 歳では「人づきあいが苦手」（41.0%）が、他の年齢層に比べて多い。また、「何事も否定的に考えてしまう」は、概ね年齢が低い層ほど、多くあげられている。

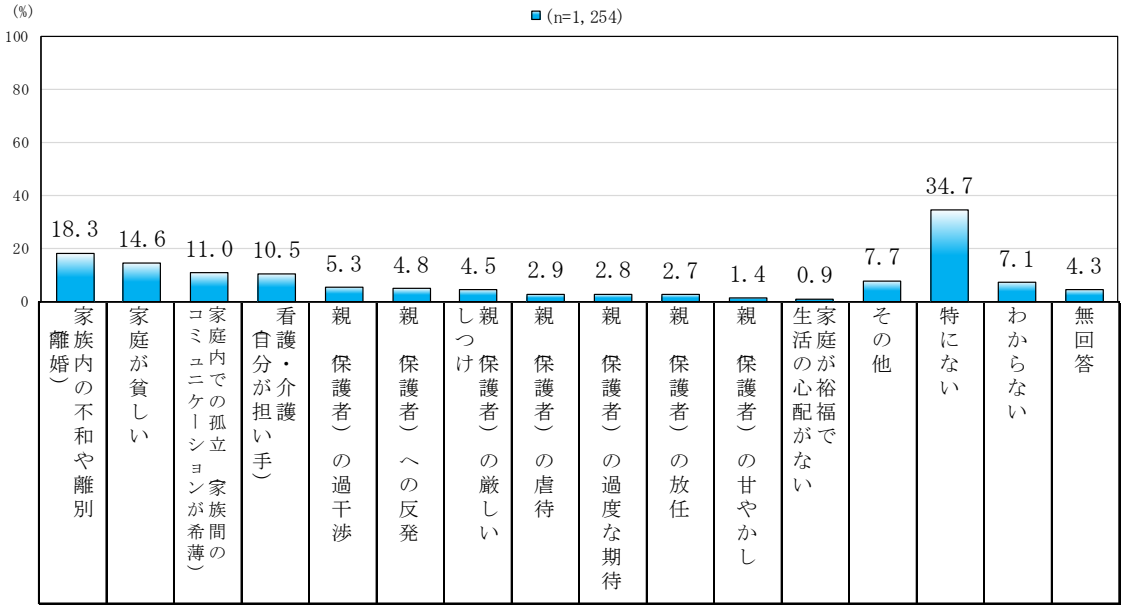
図表２－３－３－２－２　困難に直面した原因：自分自身について（性別、年齢別）

(%)

		n	人づきあいが苦手	精神的な病気	身体的な病気・ケガ	悩みや不安などが相談できない	何事も否定的に考えてしまう	妊娠	勉強が苦手	その他	特にない	わからない	無回答
性	男性	(553)	30.2	26.0	24.1	17.2	13.2	-	3.4	9.4	13.4	5.1	0.9
	女性	(693)	28.9	23.8	21.6	21.5	19.3	7.5	4.5	13.4	8.4	3.0	2.3
年齢	40歳～44歳	(234)	41.0	26.1	21.8	20.1	24.4	8.5	4.7	12.0	9.4	3.8	0.4
	45歳～49歳	(253)	32.4	25.7	14.2	18.6	20.6	5.9	5.5	12.3	8.3	5.9	1.2
	50歳～54歳	(245)	25.3	27.3	22.9	20.4	14.7	3.7	2.9	13.9	10.6	3.7	1.2
	55歳～59歳	(198)	25.8	21.7	28.8	20.7	13.1	2.0	4.0	13.6	7.1	3.5	1.5
	60歳～64歳	(179)	23.5	27.9	22.9	22.9	11.2	1.7	4.5	6.7	14.5	3.4	3.4
	65歳～69歳	(145)	25.5	16.6	31.0	13.8	11.7	1.4	1.4	9.7	16.6	2.8	3.4

②家族・家庭について

図表2－3－3－2－3　困難に直面した原因：家族・家庭について



次に、“家族・家庭について”では（図表 2-3-3-2-3）、「家族内の不和や離別（離婚）」（18.3%）、「家庭が貧しい」（14.6%）、「家庭内での孤立（家族間のコミュニケーションが希薄）」（11.0%）、「看護・介護（自分が担い手）」（10.5%）などの順にあげられている。

“家族・家庭について”を性別にみると（図表 2-3-3-2-4）、「家族内の不和や離別（離婚）」（男性 13.6%、女性 22.2%）と「看護・介護（自分が担い手）」（男性 5.8%、女性 14.1%）、「親（保護者）の厳しいしつけ」（男性 2.2%、女性 6.3%）などは、男性より女性に多くあげられている。

年齢別にみると（図表 2-3-3-2-4）、40 歳～44 歳で「家庭が貧しい」（18.4%）が第 1 位にあげられている。

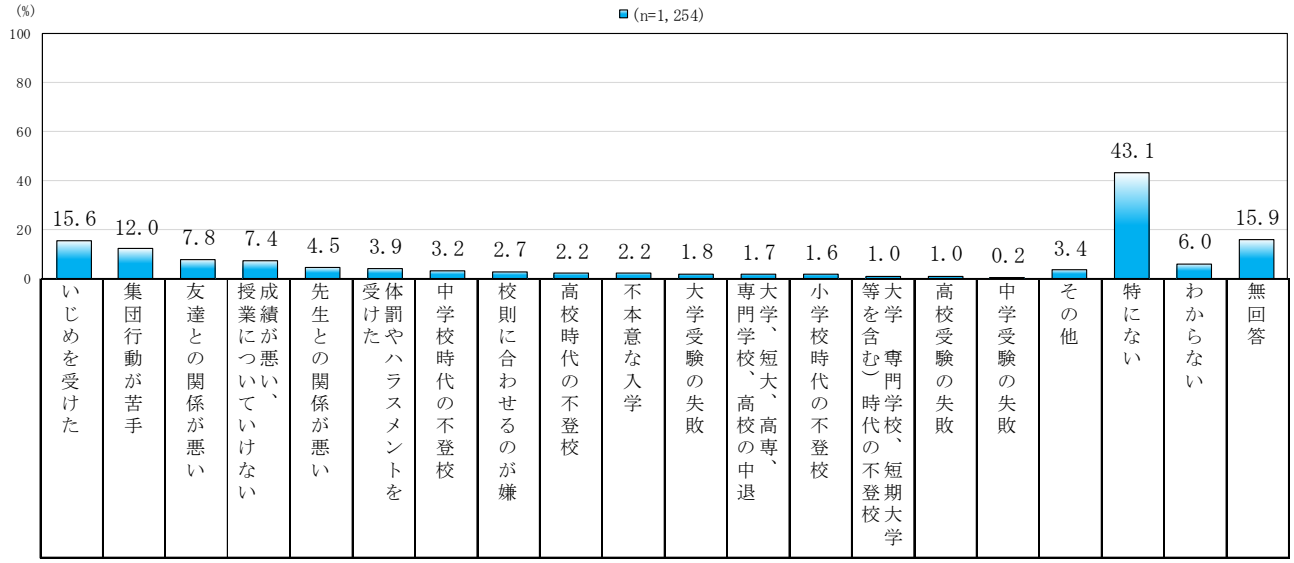
図表2－3－3－2－4　困難に直面した原因：家族・家庭について（性別、年齢別）

(%)

		n	家族内の不和や離別（離婚）	家庭が貧しい	家庭内での孤立（家族間のコミュニケーションが希薄）	看護・介護（自分が担い手）	親（保護者）の過干渉	親（保護者）への反発	親（保護者）の厳しいしつけ	親（保護者）の虐待	親（保護者）の過度な期待	親（保護者）の放任	親（保護者）の甘やかし	家庭が裕福で生活の心配がない	その他	特にない	わからない	無回答
性	男性	(553)	13.6	13.2	10.1	5.8	3.6	3.4	2.2	1.3	2.4	1.6	1.4	0.7	4.9	43.6	7.8	4.3
	女性	(693)	22.2	15.3	11.7	14.1	6.6	5.9	6.3	3.9	3.2	3.5	1.3	1.0	9.8	27.7	6.6	4.3
年齢	40歳～44歳	(234)	16.2	18.4	9.0	3.0	5.1	5.1	4.3	2.6	3.8	3.0	1.3	1.7	5.6	40.6	9.4	3.0
	45歳～49歳	(253)	15.4	14.2	12.6	5.5	9.5	5.1	7.9	4.7	4.7	5.5	2.0	1.2	4.7	33.6	8.3	2.8
	50歳～54歳	(245)	22.0	17.6	9.0	11.0	6.9	6.1	4.9	3.7	4.1	2.9	2.0	－	9.4	31.0	7.8	4.1
	55歳～59歳	(198)	21.2	13.1	9.6	15.2	4.0	3.5	5.1	1.5	1.0	1.5	1.0	1.5	8.6	36.4	4.5	5.1
	60歳～64歳	(179)	19.0	7.8	16.2	19.0	1.7	5.6	1.1	3.4	1.1	1.7	0.6	0.6	11.2	27.9	6.1	6.7
	65歳～69歳	(145)	15.2	14.5	10.3	13.8	2.1	2.1	2.1	－	－	－	0.7	－	7.6	39.3	4.8	5.5

③学校について

図表2－3－3－2－5　困難に直面した原因：学校について



“学校について”では（図表 2-3-3-2-5）、「いじめを受けた」（15.6%）、「集団行動が苦手」（12.0%）、「友達との関係が悪い」（7.8%）、「成績が悪い、授業についていけない」（7.4%）などの順にあげられている。

性別にみると（図表 2-3-3-2-6）、「いじめを受けた」（男性 11.6%、女性 18.5%）、「友達との関係が悪い」（男性 4.9%、女性 9.8%）などは男性より女性に多くあげられている。

年齢別にみると（図表 2-3-3-2-6）、54 歳以下の年齢層で、「いじめを受けた」が２割前後（40 歳～44 歳 18.8%、45 歳～49 歳 19.8%、50 歳～54 歳 22.0%）あげられている。40 歳～44 歳では、「集団行動が苦手」（17.5%）が、他の年齢層に比べて多い。

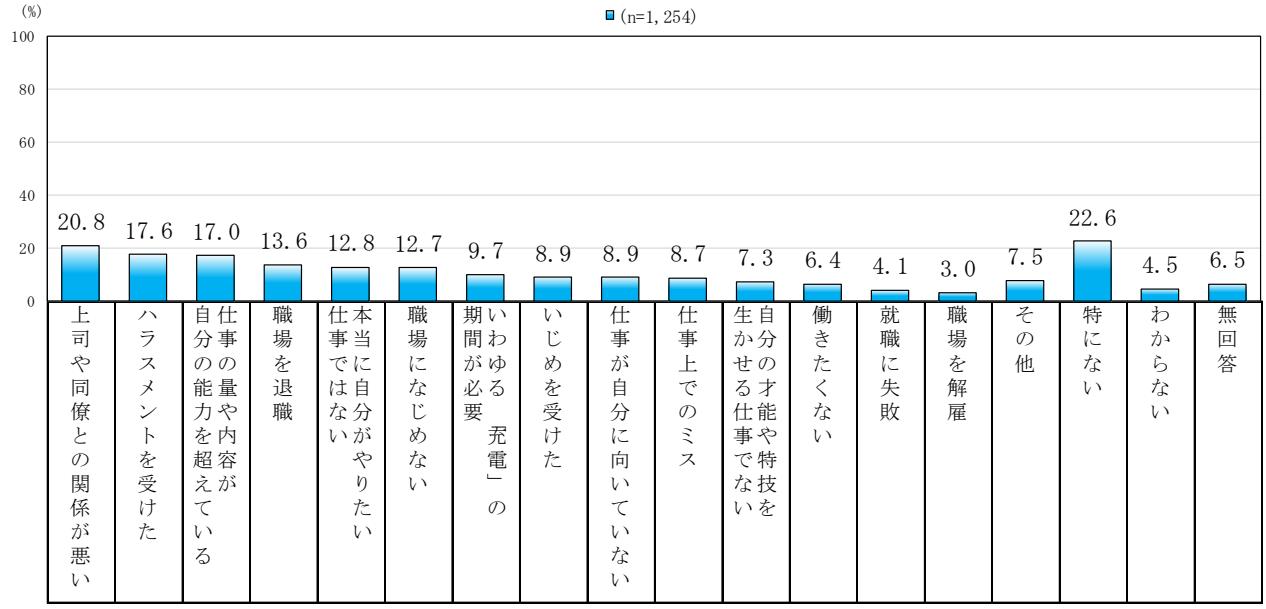
図表2－3－3－2－6　困難に直面した原因：学校について（性別、年齢別）

(%)

		n	いじめを受けた	集団行動が苦手	友達との関係が悪い	成績が悪い、授業についていけない	先生との関係が悪い	体罰やハラスメントを受けた	中学校時代の不登校	校則に合わせるのが嫌	高校時代の不登校	不本意な入学	大学受験の失敗	大学、短大、高専、専門学校、高校の中退	小学校時代の不登校	大学（専門学校、短期大学等を含む）時代の不登校	高校受験の失敗	中学受験の失敗	その他	特にない	わからない	無回答
性	男性	(553)	11.6	11.0	4.9	7.8	4.2	4.3	2.5	3.4	1.6	1.4	2.4	2.0	1.1	1.8	0.9	0.4	2.2	48.1	7.2	14.3
	女性	(693)	18.5	12.6	9.8	6.9	4.5	3.3	3.6	2.0	2.3	2.7	1.3	1.4	2.0	0.4	1.2	0.1	4.5	39.2	4.9	17.5
年齢	40歳～44歳	(234)	18.8	17.5	9.8	8.5	4.7	2.6	2.1	3.8	1.7	3.0	1.7	0.9	2.6	0.4	1.7	0.4	4.7	43.2	5.6	8.5
	45歳～49歳	(253)	19.8	13.0	10.3	7.1	3.6	5.1	5.1	3.2	3.2	0.4	2.0	4.3	2.0	2.0	0.4	－	4.0	41.1	8.7	7.9
	50歳～54歳	(245)	22.0	12.2	9.0	8.6	6.1	4.9	4.5	2.9	1.2	3.7	2.4	0.8	0.8	1.2	2.0	0.4	3.3	42.9	7.3	10.2
	55歳～59歳	(198)	10.1	11.1	5.6	9.6	4.0	4.5	3.0	2.0	2.0	2.5	0.5	0.5	2.0	－	1.5	－	3.0	47.0	2.5	18.2
	60歳～64歳	(179)	10.1	8.9	6.7	4.5	6.1	4.5	1.1	1.7	1.1	1.7	3.4	2.2	1.7	1.7	－	－	3.9	39.7	6.1	28.5
	65歳～69歳	(145)	6.2	6.2	2.8	4.8	2.1	0.7	2.1	2.1	4.1	1.4	0.7	0.7	－	0.7	－	0.7	0.7	45.5	4.1	33.1

④仕事・職場について

図表2－3－3－2－7　困難に直面した原因：仕事・職場について



“仕事・職場について”では（図表 2-3-3-2-7）、「上司や同僚との関係が悪い」（20.8%）、「ハラスメントを受けた」（17.6%）、「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」（17.0%）、「職場を退職」（13.6%）などの順にあげられている。

性別にみると（図表 2-3-3-2-8）、「上司や同僚との関係が悪い」（男性 24.2%、女性 18.0%）、「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」（男性 20.6%、女性 14.0%）、「本当に自分がやりたい仕事ではない」（男性 16.1%、女性 10.1%）、「仕事が自分に向いていない」（男性 11.0%、女性 7.1%）などは女性より男性に、「いじめを受けた」（男性 6.5%、女性 10.7%）は男性より女性に、それぞれ多くあげられている。

年齢別にみると（図表 2-3-3-2-8）、「仕事の量や内容が自分の能力を超えている」は 40 歳～44 歳（22.6%）で、「職場を退職」は 50 歳～54 歳（19.2%）で、それぞれ多い。また、「本当に自分がやりたい仕事ではない」は、概ね年齢が低い層ほど多くあげられている。

図表2－3－3－2－8　困難に直面した原因：仕事・職場について（性別、年齢別）

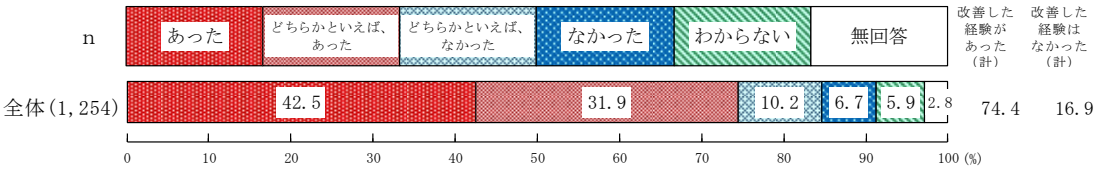
(%)

		n	上司や同僚との関係が悪い	ハラスメントを受けた	仕事の量や内容が自分の能力を超えている	職場を退職	本当に自分がやりたい仕事ではない	職場になじめない	いわゆる「充電」の期間が必要	いじめを受けた	仕事が自分に向いていない	仕事上でのミス	自分の才能や特技を生かせる仕事でない	働きたくない	就職に失敗	職場を解雇	その他	特にない	わからない	無回答
性	男性	(553)	24.2	17.9	20.6	14.8	16.1	13.9	8.1	6.5	11.0	9.0	8.3	7.4	4.9	4.9	7.8	21.7	4.7	4.2
	女性	(693)	18.0	17.0	14.0	12.6	10.1	11.7	10.8	10.7	7.1	8.4	6.3	5.5	3.3	1.4	7.2	23.4	4.2	8.4
年齢	40歳～44歳	(234)	25.2	16.7	22.6	12.4	16.7	14.1	15.8	8.1	10.3	11.5	10.3	11.5	6.4	1.7	9.4	23.5	2.6	1.3
	45歳～49歳	(253)	22.5	18.2	17.8	12.3	15.4	14.2	10.7	8.7	10.3	7.5	7.9	5.5	4.3	2.0	7.9	16.6	5.5	4.3
	50歳～54歳	(245)	24.1	20.8	13.9	19.2	12.2	16.3	8.6	7.8	11.4	10.2	6.9	6.1	4.5	4.1	9.4	23.3	3.7	4.9
	55歳～59歳	(198)	16.2	14.6	18.2	14.1	13.1	8.1	10.1	10.6	6.1	8.1	8.6	6.6	3.0	6.6	7.6	23.7	3.0	6.6
	60歳～64歳	(179)	20.1	22.3	16.8	11.7	8.4	14.5	7.3	11.2	7.8	8.4	6.1	3.4	3.9	1.7	5.0	19.6	8.4	8.4
	65歳～69歳	(145)	12.4	11.0	10.3	9.7	7.6	5.5	2.8	7.6	4.8	4.8	2.1	3.4	1.4	1.4	3.4	32.4	4.1	18.6

（３）困難な状態から改善した経験（問 22）

問 22　あなたは今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった状態が改善した経験がありましたか。最もあてはまるものを選んでください。（１つだけ）

図表２－３－３－３－１　困難な状態から改善した経験



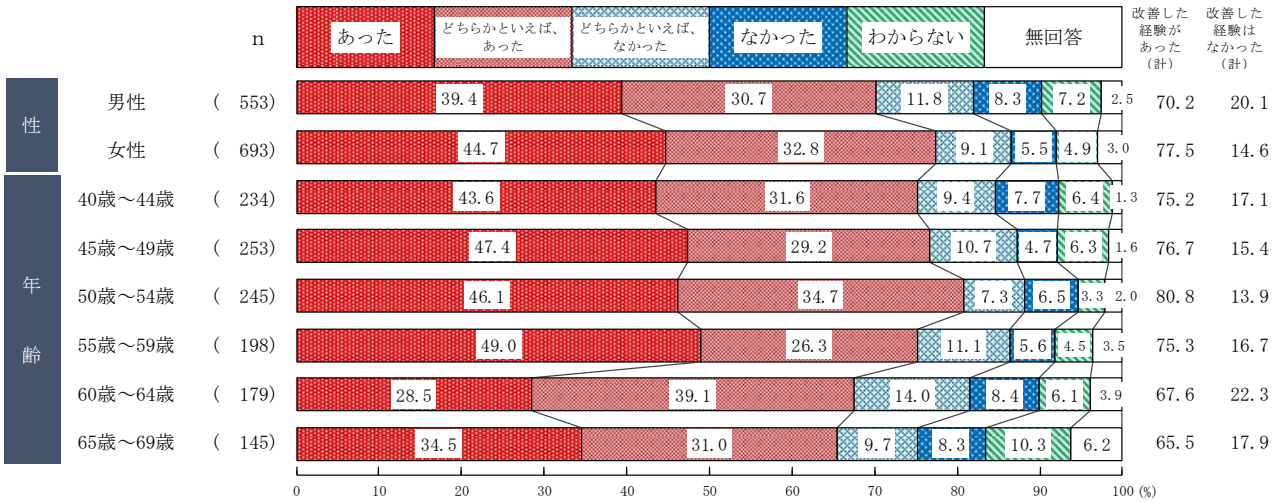
問２０で、社会生活や日常生活を円滑に送る上での困難について、『経験があった（ある）』（「今までに経験があった（または、現在ある）」＋「どちらかといえば、あった（ある）」）と答えた者（1,254 人）に、その状態から改善した経験の有無を聞いたところ（図表 2-3-3-3-1）、「あった」という回答者は 42.5％で、「どちらかといえば、あった」（31.9％）を合わせると 74.4％であり、７割以上の回答者は改善した経験を持っている。

一方、『改善した経験はなかった』（「なかった」＋「どちらかといえば、なかった」）という回答者は 16.9％である。

性別にみると（図表 2-3-3-3-2）、困難な状態から『改善した経験があった』（「あった」＋「どちらかといえば、あった」）という回答者は男女とも７割台（男性 70.2％、女性 77.5％）で、女性が男性を約７ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-3-3-3-2）、いずれの年齢層でも、『改善した経験があった』という回答者が６割以上を占め、50 歳～54 歳で 80.8％と最も割合が高い。

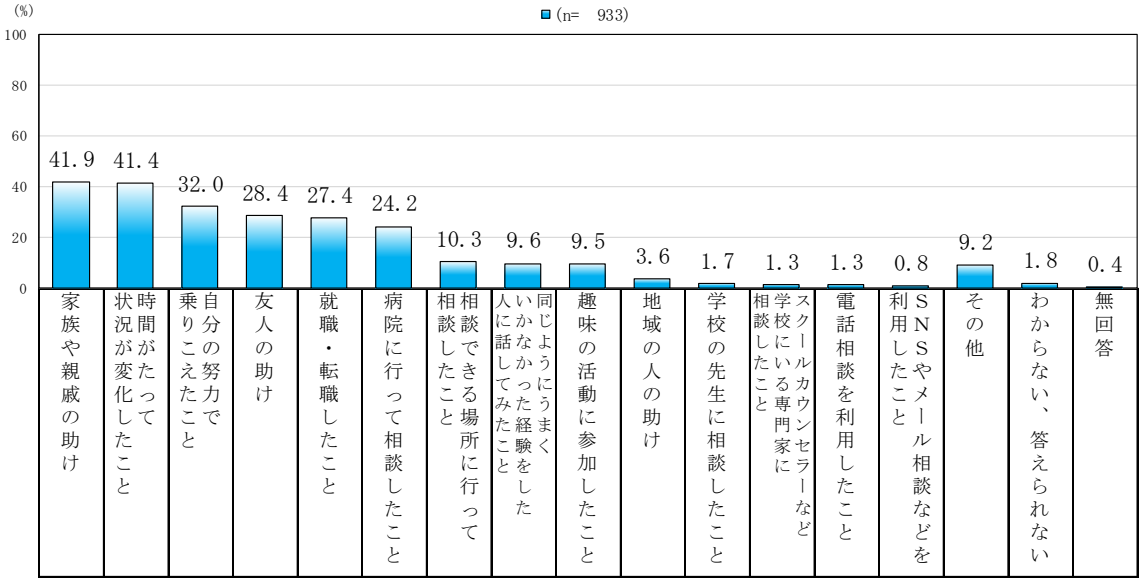
図表２－３－３－３－２　困難な状態から改善した経験（性別、年齢別）



（４）困難な状態から改善したきっかけ（問 23）

問 23　状態が改善したきっかけや改善に役立ったことは何だと思いますか。（いくつでも）

図表２－３－３－４－１　困難な状態から改善したきっかけ



問２２で、困難な状態から『改善した経験があった』（「あった」＋「どちらかといえば、あった」）と答えた者（933 人）が、改善のきっかけとしてあげているものについてみると（図表 2-3-3-4-1）、「家族や親戚の助け」（41.9%）と「時間がたって状況が変化したこと」（41.4%）がともに４割台で並び、以下「自分の努力で乗りこえたこと」(32.0%)、「友人の助け」(28.4%)、「就職・転職したこと」(27.4%)、「病院に行って相談したこと」（24.2%）などの順となっている。

性別にみると（図表 2-3-3-4-2）、「友人の助け」（男性 20.1%、女性 34.6%）、「相談できる場所に行って相談したこと」（男性 8.0%、女性 12.1%）、「同じようにうまくいかなかった経験をした人に話してみたこと」（男性 5.7%、女性 12.5%）などは、男性より女性に多くあげられている。

年齢別にみると（図表 2-3-3-4-2）、いずれの年齢層でも「家族や親戚の助け」と「時間がたって状況が変化したこと」が上位２項目にあげられている。

図表２－３－３－４－２　困難な状態から改善したきっかけ（性別、年齢別）

(%)

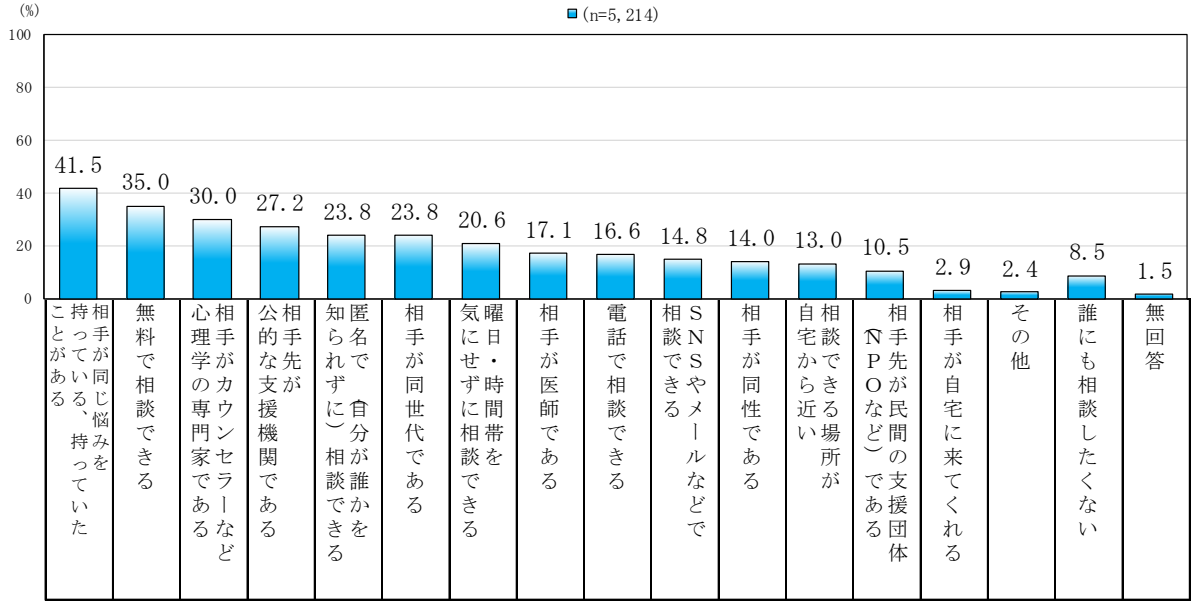
		n	家族や親戚の助け	時間がたって状況が変化したこと	自分の努力で乗りこえたこと	友人の助け	就職・転職したこと	病院に行って相談したこと	相談できる場所に行って相談したこと	同じようにうまくいかなかった経験をした人に話してみたこと	趣味の活動に参加したこと	地域の人の助け	学校の先生に相談したこと	スクールカウンセラーなど学校にいる専門家に相談したこと	電話相談を利用したこと	ＳＮＳやメール相談などを利用したこと	その他	わからない、答えられない	無回答
性	男性	(388)	43.6	38.4	29.6	20.1	25.5	26.0	8.0	5.7	8.2	3.6	1.3	1.0	0.5	0.3	7.5	2.8	0.3
	女性	(537)	40.8	43.6	33.9	34.6	29.2	23.1	12.1	12.5	10.1	3.5	2.0	1.5	1.9	1.1	10.2	1.1	0.6
年齢	40歳～44歳	(176)	41.5	46.0	30.7	23.3	31.3	23.3	10.2	8.5	6.3	2.8	2.3	2.8	1.1	0.6	8.5	3.4	0.6
	45歳～49歳	(194)	46.9	35.1	30.9	29.4	26.8	21.6	6.2	9.8	10.3	2.1	1.0	1.5	-	0.5	12.4	1.5	-
	50歳～54歳	(198)	40.4	42.4	38.9	26.8	29.8	26.3	11.6	9.6	12.6	3.0	1.5	2.0	3.0	0.5	11.1	1.0	0.5
	55歳～59歳	(149)	40.3	38.9	31.5	33.6	30.9	20.1	12.1	10.7	8.1	5.4	2.0	-	0.7	0.7	6.0	2.0	0.7
	60歳～64歳	(121)	40.5	45.5	25.6	32.2	23.1	28.9	10.7	9.1	9.9	2.5	1.7	-	1.7	1.7	7.4	0.8	-
	65歳～69歳	(95)	40.0	42.1	31.6	26.3	16.8	27.4	12.6	10.5	9.5	8.4	2.1	-	1.1	1.1	7.4	2.1	1.1

４．相談・支援

（１）相談先に求めること（問 24）

問 24　あなたが、社会生活や日常生活を円滑に送ることができない状態となったときに、家族や知り合い以外に相談するとすれば、どのような人や場所なら、相談したいと思いますか。（いくつでも）

図表２－３－４－１－１　相談先に求めること



困難に直面した場合の相談先に求めることとしては（図表 2-3-4-1-1）、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」が 41.5%で第１位にあげられ、以下、「無料で相談できる」（35.0%）、「相手がカウンセラーなど心理学の専門家である」（30.0%）、「相手先が公的な支援機関である」（27.2%）、「匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる」（23.8%）、「相手が同世代である」（23.8%）、「曜日・時間帯を気にせずに相談できる」（20.6%）などの順となっている。

「誰にも相談したくない」という回答者は 8.5%である。

性別にみると(図表 2-3-4-1-2)、「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」(男性 35.3%、女性 46.9%)、「無料で相談できる」(男性 32.4%、女性 37.3%)、「相手がカウンセラーなど心理学の専門家である」(男性 26.7%、女性 32.9%)、「匿名で(自分が誰かを知られずに)相談できる」(男性 20.2%、女性 26.7%)、「相手が同性である」(男性 8.5%、女性 18.8%)などは男性より女性に、「相手先が公的な支援機関である」(男性 29.3%、女性 25.5%)、「相手が医師である」(男性 18.2%、女性 16.1%)などは女性より男性に、それぞれ多くあげられている。

「誰にも相談したくない」という回答者は男性(10.6%)では約1割で、女性(6.6%)を4ポイント上回っている。

年齢別にみると(図表 2-3-4-1-2)、いずれの年齢層でも「相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある」と「無料で相談できる」が上位2項目にあげられている。また、「相手先が公的な支援機関である」、「相手が同世代である」、「電話で相談できる」、「相手が同性である」などは、概ね年齢が高い層ほど、「ＳＮＳやメールなどで相談できる」は年齢が低い層ほど、それぞれ多くあげられている。

図表2－3－4－1－2　相談先に求めること(性別、年齢別)

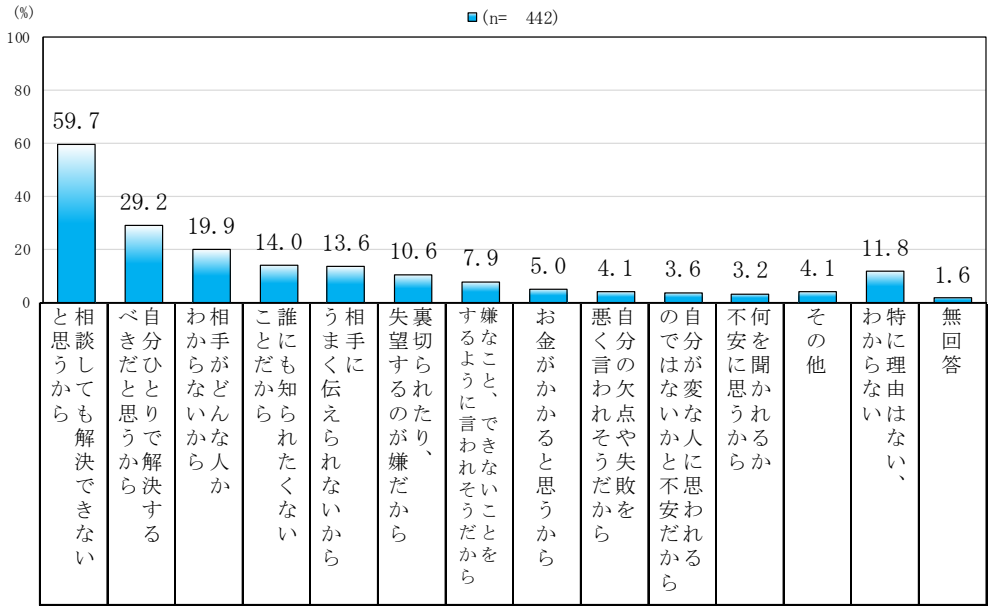
(%)

		n	相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある	無料で相談できる	相手がカウンセラーなど心理学の専門家である	相手先が公的な支援機関である	匿名で(自分が誰かを知られずに)相談できる	相手が同世代である	曜日・時間帯を気にせずに相談できる	相手が医師である	電話で相談できる	ＳＮＳやメールなどで相談できる	相手が同性である	相談できる場所が自宅から近い	相手先が民間の支援団体(ＮＰＯなど)である	相手が自宅に来てくれる	その他	誰にも相談したくない	無回答
性	男性	(2,378)	35.3	32.4	26.7	29.3	20.2	22.5	19.0	18.2	16.4	15.0	8.5	12.2	11.9	3.3	2.3	10.6	1.9
	女性	(2,815)	46.9	37.3	32.9	25.5	26.7	24.9	22.0	16.1	17.0	14.5	18.8	13.7	9.3	2.6	2.5	6.6	1.2
年齢	40歳～44歳	(738)	43.5	36.4	31.6	22.0	26.6	21.8	24.1	17.5	12.5	22.0	11.4	14.8	9.2	2.4	2.7	9.6	0.5
	45歳～49歳	(873)	44.3	36.5	32.2	22.8	27.0	20.5	25.0	16.2	15.5	20.2	11.7	12.8	9.6	2.7	2.3	8.4	1.7
	50歳～54歳	(861)	44.8	38.8	34.4	27.6	25.7	21.5	24.0	20.6	14.6	17.7	12.0	13.1	11.1	2.8	3.3	8.0	1.4
	55歳～59歳	(843)	40.1	34.2	31.2	28.7	26.2	22.3	19.7	16.1	16.6	13.3	14.0	10.8	12.5	1.4	3.3	8.5	1.2
	60歳～64歳	(949)	41.9	33.6	29.3	30.1	21.6	26.6	17.1	18.1	19.1	11.7	16.4	12.9	10.2	3.0	1.2	8.0	1.3
	65歳～69歳	(950)	35.3	31.3	22.3	30.7	17.1	28.8	15.1	14.2	20.4	6.0	17.8	14.0	10.3	4.8	1.9	8.5	2.8

（２）相談したくないと思う理由（問 25）

問 25　相談したくないと思う理由は何ですか。（いくつでも）

図表２－３－４－２－１　相談したくないと思う理由



問 24 で、「誰にも相談したくない」と答えた者（442 人）が、その理由にあげているものについてみると（図表 2-3-4-2-1）、「相談しても解決できないと思うから」が 59.7％で第１位となっており、以下、「自分ひとりで解決するべきだと思うから」（29.2％）、「相手がどんな人かわからないから」（19.9％）、「誰にも知られたくないことだから」（14.0％）、「相手にうまく伝えられないから」（13.6％）などの順となっている。

性別にみると(図表2-3-4-2-2)、「自分ひとりで解決するべきだと思うから」(男性36.3%、女性19.4%)は女性より男性に、「相手がどんな人かわからないから」(男性13.9%、女性28.0%)、「相手にうまく伝えられないから」(男性10.0%、女性18.3%)などは男性より女性に、それぞれ多くあげられている。

年齢別にみると(図表2-3-4-2-2)、いずれの年齢層でも「相談しても解決できないと思うから」が第1位にあげられている。第2位には、50歳～54歳では「相手がどんな人かわからないから」(21.7%)が、その他の年齢層では「自分ひとりで解決するべきだと思うから」(40歳～44歳32.4%、45歳～49歳24.7%、55歳～59歳33.3%、60歳～64歳30.3%、65歳～69歳35.8%)があげられている。

図表2－3－4－2－2 相談したくないと思う理由(性別、年齢別)

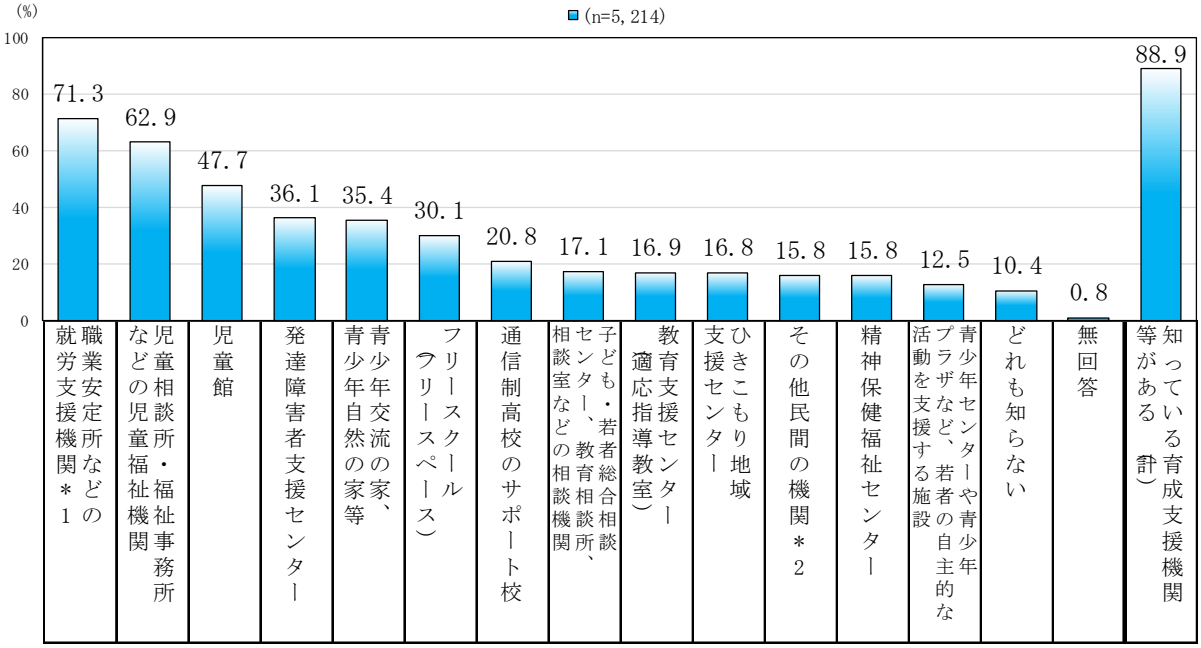
(%)

		n	相談しても解決できないと思うから	自分ひとりで解決するべきだと思うから	相手がどんな人かわからないから	誰にも知られたくないことだから	相手にうまく伝えられないから	裏切られたり、失望するのが嫌だから	嫌なこと、できないことをするように言われそうだから	お金がかかると思うから	自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから	自分が変な人に思われるのではないかと不安だから	何を聞かれるか不安に思うから	その他	特に理由はない、わからない	無回答
性	男性	(251)	57.4	36.3	13.9	16.3	10.0	8.8	7.6	4.8	4.4	3.2	4.4	3.6	13.9	2.4
	女性	(186)	62.4	19.4	28.0	10.2	18.3	12.9	8.1	5.4	3.2	3.2	1.6	4.8	9.1	0.5
年齢	40歳～44歳	(71)	64.8	32.4	31.0	21.1	15.5	15.5	9.9	12.7	5.6	5.6	7.0	1.4	9.9	-
	45歳～49歳	(73)	67.1	24.7	13.7	13.7	9.6	12.3	6.8	4.1	5.5	4.1	2.7	6.8	4.1	-
	50歳～54歳	(69)	71.0	17.4	21.7	13.0	15.9	13.0	13.0	7.2	7.2	4.3	2.9	1.4	8.7	1.4
	55歳～59歳	(72)	58.3	33.3	20.8	15.3	20.8	9.7	12.5	2.8	2.8	2.8	4.2	4.2	11.1	1.4
	60歳～64歳	(76)	52.6	30.3	18.4	10.5	6.6	9.2	3.9	2.6	1.3	2.6	1.3	3.9	19.7	3.9
	65歳～69歳	(81)	46.9	35.8	14.8	11.1	13.6	4.9	2.5	1.2	2.5	2.5	1.2	6.2	16.0	2.5

（３）育成支援機関等の認知度（問 26）

問 26　あなたは、子供・若者を対象とした育成支援機関等を知っていますか。
知っている育成支援機関等をすべて選んでください。（いくつでも）

図表2－3－4－3－1　育成支援機関等の認知度



*1 職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関

*2 その他民間の機関（自然体験活動、学習支援、就労支援、ひきこもりの支援など若者育成支援を行うＮＰＯなど）

こども・若者を対象とした育成支援機関等の認知度としては（図表 2-3-4-3-1）、「職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」が 71.3％で最も高く、以下、「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」（62.9％）、「児童館」（47.7％）、「発達障害者支援センター」（36.1％）、「青少年交流の家、青少年自然の家等」（35.4％）、「フリースクール（フリースペース）」（30.1％）などの順となっている。

「どれも知らない」という回答者は 10.4％で、回答者の９割近くは、いずれかの育成支援機関等を認知している。

性別にみると（図表 2-3-4-3-2）、「青少年交流の家、青少年自然の家等」は、男性 35.5%、女性 35.2%とほぼ同率であるが、それ以外の施設については、いずれも男性より女性の認知度が高い。

年齢別にみると（図表 2-3-4-3-2）、いずれの年齢層でも「職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」、「児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関」、「児童館」が上位にあげられている。一方、「通信制高校のサポート校」は年齢が低い層ほど、「ひきこもり地域支援センター」は年齢が高い層ほど、それぞれ認知度が高い傾向がみられる。

図表2－3－4－3－2　育成支援機関等の認知度（性別、年齢別）

(%)

		n	職業安定所などの就労支援機関＊1	児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関	児童館	発達障害者支援センター	青少年交流の家、青少年自然の家等	フリースクール（フリースペース）	通信制高校のサポート校	子ども・若者総合相談センター、教育相談所、相談室などの相談機関	教育支援センター（適応指導教室）	ひきこもり地域支援センター	その他民間の機関＊2	精神保健福祉センター	青少年センターや青少年プラザなど、若者の自主的な活動を支援する施設	どれも知らない	無回答	知っている育成支援機関等がある（計）
性	男性	(2,378)	67.5	58.1	39.1	27.8	35.5	20.6	15.1	14.5	13.8	14.6	14.0	12.9	11.3	13.7	0.9	85.4
	女性	(2,815)	74.5	66.9	54.9	43.1	35.2	38.1	25.8	19.3	19.4	18.7	17.5	18.1	13.5	7.5	0.7	91.9
年齢	40歳～44歳	(738)	70.5	60.0	53.0	37.8	32.9	30.2	23.6	20.3	18.7	11.4	13.3	14.5	10.2	10.3	0.7	89.0
	45歳～49歳	(873)	67.4	60.7	49.5	35.6	32.6	31.0	23.1	17.2	16.3	13.4	15.7	15.2	11.3	10.7	0.6	88.8
	50歳～54歳	(861)	71.7	61.8	49.9	35.8	37.2	32.9	24.5	18.0	17.1	14.3	17.0	15.4	11.5	11.5	0.2	88.3
	55歳～59歳	(843)	74.7	64.4	48.0	35.5	37.0	33.2	21.8	16.5	15.8	17.2	18.4	16.7	14.9	9.8	0.5	89.7
	60歳～64歳	(949)	73.9	66.1	46.5	36.5	37.5	29.8	18.7	16.4	16.2	21.2	16.2	17.0	13.4	10.0	0.6	89.4
	65歳～69歳	(950)	69.9	63.7	40.7	35.6	34.5	24.1	14.5	14.8	17.5	21.7	14.3	15.5	13.3	9.9	1.9	88.2

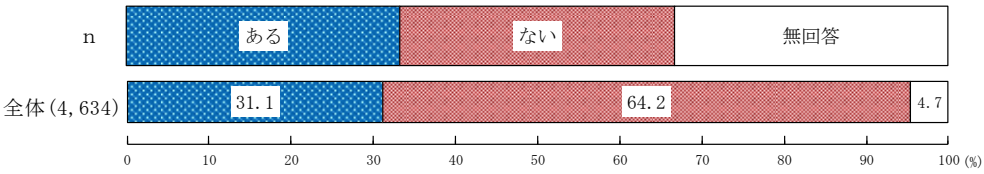
*1 職業安定所（ハローワーク）・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関

*2 その他民間の機関（自然体験活動、学習支援、就労支援、ひきこもりの支援など若者育成支援を行うＮＰＯなど）

（４）育成支援機関等の利用経験（問 27）

問 27　これらの機関を利用したことはありますか。（１つだけ）

図表２－３－４－４－１　育成支援機関等の利用経験

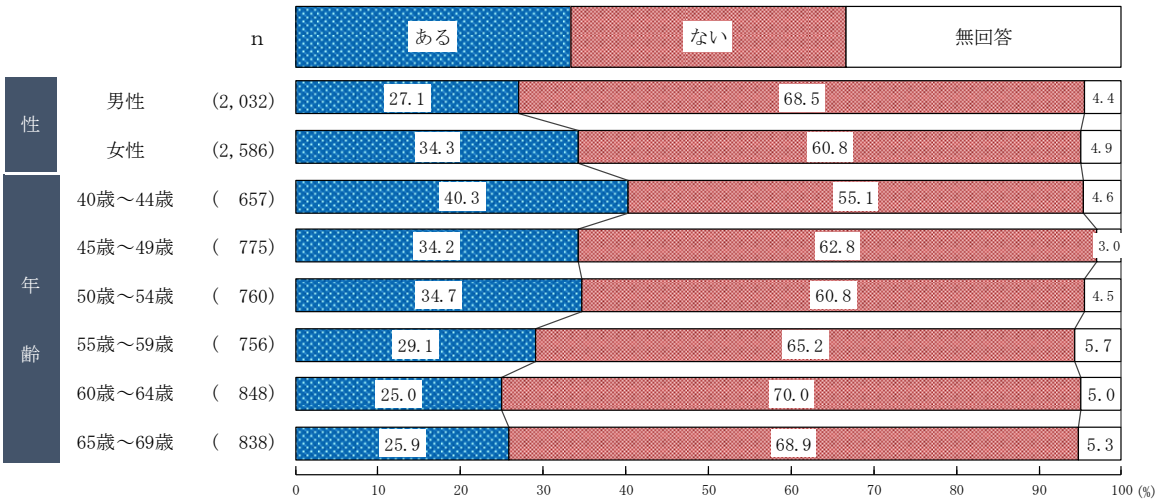


問２６で、いずれかの育成支援機関等を認知している旨を答えた者（4,634 人）のうち、実際に利用経験が「ある」という回答者は 31.1%で、６割以上は「ない」（64.2%）と回答している（図表 2-3-4-4-1）。

性別にみると（図表 2-3-4-4-2）、利用経験が「ある」という回答者は、女性（34.3%）が男性（27.1%）を約７ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-3-4-4-2）、年齢が低い層ほど、利用経験が「ある」という回答者の割合は高くなる傾向がみられ、40 歳～44 歳では 40.3%となっている。

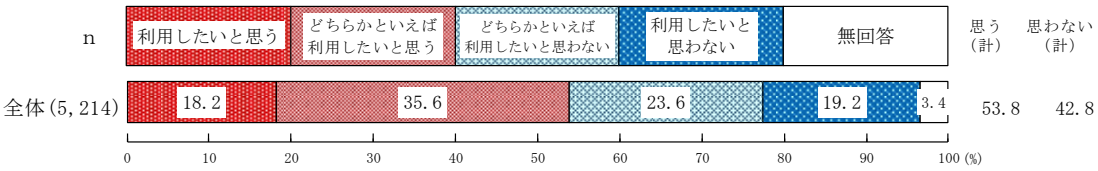
図表２－３－４－４－２　育成支援機関等の利用経験（性別、年齢別）



（５）育成支援機関等の利用意向（問 28）

問 28　これらの機関について利用したいと思いますか。（１つだけ）

図表２－３－４－５－１　育成支援機関等の利用意向



育成支援機関等の利用意向を聞いたところ（図表 2-3-4-5-1）、２割近くが「利用したいと思う」（18.2%）と回答し、「どちらかといえば利用したいと思う」（35.6%）を合わせると 53.8%となっている。

性別にみると（図表 2-3-4-5-2）、「利用したいと思う」という回答者は、男性 15.9%、女性 20.1%、「どちらかといえば利用したい」は、男性 31.2%、女性 39.4%となっており、利用したいと『思う』（「利用したいと思う」＋「どちらかといえば利用したいと思う」）という回答者は、女性（59.5%）が男性（47.2%）を約 12 ポイント上回っている。

年齢別にみると（図表 2-3-4-5-2）、利用したいと『思う』という回答者の割合は、40～44 歳で 59.5%と、他の年齢層に比べて高くなっている（45 歳～49 歳 53.2%、50 歳～54 歳 53.5%、55 歳～59 歳 54.1%、60 歳～64 歳 52.8%、65 歳～69 歳 50.9%）。

図表２－３－４－５－２　育成支援機関等の利用意向（性別、年齢別）

